

# 2016年度事業計画・予算を決定

3月24日の京都保健会理事会は、2016年度の事業計画、予算を決定しました。その概要は、次のとおりです。

## 事業計画の重点方針

- (1) 京都保健会は61年目の挑戦。その一歩が京都民医連中央病院総合移転。基本計画の確定、経営計画づくりを。
- (2) プライマリヘルスケアと二次救急の専門医療を。事業を拡大する新病院と支える病院・診療所を継続・前進させるため、医学生（奨学生）、初期研修医、専攻医、既卒医師などの確保と養成が欠かせない。既卒医師確保は、特別の体制でとりくむ。
- (3) 医療・介護活動の第一の柱は「貧困と格差に立ち向かい、豊かな超高齢者社会の実現を目指す無差別・平等の医療・介護の実践」。第二は「安全、倫理、共同のいとなみを軸とした総合的な医療・介護の質の向上」。地域で連携を広げ、医療介護実践を通し、京都保健会の公益性をさらに高める。人権を保障する地域包括ケアの実践を進め、地域包括ケアシステムに参画することは共通課題。主治医機能の発揮、多職種協働の外来医療、在宅医療の強化と診療所の医療・介護複合展開、地域医療構想に対応する病院・病棟への転換を進める。
- (4) 事業拡大、収益増の経営計画は、在宅医療の拡大

（2014年度実績の1.5倍化）と、介護事業の事業収益比10%をめざす事業計画、総合事業分野で収益を伸ばし、地域包括ケアに貢献することが、中期計画における経営の基本方針。

(5) 2016年度から総合移転を支える総合基金運動にとりくむ。4カ年の純増目標15億円、2016年度は3億7500万円。毎年約3億円の解約が想定され、目標の2倍の資金協力を得るための大運動が必要。

(6) 格差と貧困が広がり、自己責任を基本とした国の社会保障改悪により、安心して住み続けることが困難に。健康友の会と共同し、要求実現と住民の生存権、健康権をまもる運動を。2020年に3万人の友の会会員をめざす2016年度目標は、会員1500純増、元気誌400純増。健診を会員数の20%（5200人）、活動担い手を5%（1300人）、憩いの場を1友の会2カ所以上、基金協力者を会員数の30%（7800人）に広げる。

(7) 日本国憲法公布70年、いのちの平等、個人の尊厳を守り抜くため憲法を守り、壊そうとするものに対して徹底して抗うことが私たちの使命。戦後日本が平和を守り抜き、権利としての社会保障のたたかひの最大の力は現憲法。当面の重点は、戦争法廃止に向けた2千万人署名のとりくみ。7月の参議院選挙は、いのちの平等の実現をめざす民医連職員として、主権者として選挙の意義を深め積極的な政治参加

を進める。

## 予算骨子

2016年度予算は京都民医連中央病院総合移転経営計画をベースにした。事業キャッシュフローで、通常投資2.5億円、長期借入金返済4.6億円、総合移転のための資産取得資金2億円をまかなうため、全体で必要利益5億円を提起し、全事業所で予算方針を作成、方針にもとづく検討を重ね、責任をもってやりきる予算を集約した。

事業収益は169億2777万円（2015年度決算予想比103.8%、6億2470万円増）、内訳は入院収益同比103.9%（3億398万円増）、外来収益同比101.3%（8602万円増）、保健予防収益同比108.7%（4787万円増）と、医療収益で4億4198万円の増収をはかる。介護収益は決算予想比110.3%（1億2712万円増）の増収をはかる。

事業費用は162億9804万円（2015年度決算予想比101.2%、1億9422万円増）、事業収益の伸びを2.6%下回っており、確実な予算執行が求められる。

経常損益5億4316万円、純損益3億7286億円を確保、投資を最小限に抑え、事業活動キャッシュフロー12億円の獲得をめざす。通常投資は、中央1億5千万円、南2千5百万円、北部3千万円、介護1千万円、予備（法人事務局・近看含む、年度内緊急対応に充当）3千5百万円とする。

